リレーエッセイ



まだまだ・アフターファイブの楽しみ

Yoshikawa Sci. Lab. の吉川裕泰と申します．リガクの松田様からバトンを受け，このコラムを執筆させていただきます．

まずは自己紹介から．私の分析人生は 50 年前に入社した日本鋼管㈱（現 JFE スチール）から始まっています．主として鉄鋼製造関連の分析業務に従事してきました．新規分析手法の開発，管理業務および社内外からの分析ニーズに応えるための開発業務など多岐にわたる分野へ対応してきました．その後，還暦を機会に個人事務所/会社を立ち上げて，現在に至っています．

本コラムの題目の「まだまだ」は圍伊玖磨氏の名随筆「パイプのけむり」をもじったものです．と言うのも「アフターファイブの楽しみ」の題目で小文を発表させていただくのが 3 回目（2 回は日本鉄鋼協会，評価・解析・分析部会のニュースレターズに寄稿）になるからです．第 1 報[1]は 40 代半ばにおける執筆であり，専門分野の異なるメンバーにおける討論において専門用語を用いない簡易な表現でこちら側の意思を如何に上手にかつ簡略化して伝えるといったことをアフターファイブ（飲み会における種々の議論など）を利用して訓練するのも楽しいものだということを書かせていただいた．第 2 報[2]は個人事業主になったばかりの 60 代前半の執筆で，参加した学会における情報収集時における出会い，大学 1 年生との化学実験授業を通してのふれあい，さらに 40 年来通っている横浜駅近くの寿司店での常連客の皆さんとの会話など，多くの人々との出会いを通して，年齢に関係なく多くの経験や思いをお互いに話し合う場を得ていることを楽しんでいるということを小文として発表させていただいた．

さて，第 3 回目のこのリレーエッセイ．種々の場で出会う人々との会話やディスカッションを通じて多くのことを学ばせていただく楽しさをこのまま継続したいと考えています．また，後期高齢に近づくにつれ，これまでお世話になった学会や若い人たちへのささやかなプレゼントではありませんが，私の経験してきた化学（主として分析化学）から得た教訓などを伝えるような活動ができたらと考えています．コンサルタントを請け負っている民間企業の分析メンバーへの教育などを通じて私のつたない経験を伝えたく活動しています．関東支部主催のセミナーへの講師としての参加もその一環です．

写真 1 は Pristina 市にある KHMI（コソボ水理気象研究所）の分析担当のお嬢さんたちとのパーティーの写真です．KHMI は MESPI（環境空間計画インフラ省）に所属する研究所です．大気粉塵中の重金属元素の ICP-MS 分析および排ガス中の NO_x 及び SO_x 分析の標準化に関する技術支援のため 2024 年および 2025 年にそれぞれ 2 か月弱滞在し，メンバーの皆様と楽しい時間を過ごしてきました．当然アルバニア語は全く門外漢のため，通訳者を介しての会話（日本語⇔英語⇔アルバニア語）でしたが，こと分析化学に関するディスカッションは驚くほどスムーズでした．今考えると国や地域が異なっても基本的な考え方が同じであり，また日本と同じような基礎教育が実施されているのだろうと推察しています．さらに人生最後のチャレンジの一つとしてネパールにおいてあるプロジェクトを推進しています．写真 2 は現地でバックアップしていただいている若者との写真です．このように最近は国外での活動を通しての多くの方々との出会いも楽しみの一つになってきました．

ラキア（コソボの果実酒）やラキシー（ネパール版焼酎）を楽しみながら多くのことを語り合いたい．

さて，次回のリレーエッセイは工学院大学先進工学部応用化学科の萩原健太さんにバトンタッチしたいと思います．萩原さんとは私が明大理工学部の兼任講師時代に知り合いました．現在も学会等でお会いして，研究成果などについてディスカッションさせていただいています．将来が期待される若手研究者です．



写真 1　分析担当のお嬢さんたちと



写真 2　カトマンズの若者たちと

1）吉川裕泰：日本鉄鋼協会，評価・解析・分析部会ニュースレターズ，No1, 14,（1997）．
2）吉川裕泰：日本鉄鋼協会，評価・解析・分析部会ニュースレターズ，No39, 7,（2016）．

〔Yoshikawa Science Laboratory　吉川 裕泰〕